



正門のロータリーに咲き誇っていたツツジがあとわずかとなりました。

「花の命は短くて 苦しきことのみ多かりき」と花のはかなさ、人生の悲哀を林芙美子は歌っています。美しさがあるからこそ、苦しさも意味あるものとして存在する、というようにも読み取れて、なかなかいい詩だとツツジを眺めながら思いました。



ある教室の黒板をのぞくと、2文字の漢字が一番上に書かれており、その漢字を支える形で、出された意見がびっしりと敷き詰められていました。

学級目標が決定するまでにたくさんの方の根拠となる意見が出されていることがわかります。

意味のある学級目標になったと黒板を見ながらじいんとききました。

ところで、この「意味のある」の「意味」とは一体どういう意味なのでしょう。「意味」の「意」という漢字は「音 + 心」です。「心の音」。心で感じて言葉にできない時、それはまるで音として感じ入る。それが心の音だとすると、その「心の音を味わう」のが「意味」となります。

「ああ、空がきれいだ」と言葉にできるよりも、さらに深いところで感受し、言葉の代わりに、まるでクラシックが流れるような音を味わう営み。

今回の学級目標も、単なる二文字の漢字ではなく、一人一人の心が音楽のように奏でられて、今にも黒板から流れてきそうな気持ちになりました。

花の命は短くて 苦しきことのみ …の詩も素敵ですが、林芙美子に負けないくらい、素敵な詩人がここかしこに…いっぱいいます。